



# 校長だより

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠



## 弱みをカバーし強みを生かす！

猛暑の折、毎日花壇の水やりは欠かせません。しかし、いわゆる雑草たち。水やりのない炎天下でも青々としています。なぜ、そんなに平気でいられるのでしょうか・・・？

「エノコログサ」。俗に「ねこじゃらし」とも言われる雑草(?)。植物の葉には気孔という空気の入出力口がある。気孔を開けば開くほど水分も逃げていく。しかし、エノコログサは二酸化炭素を濃縮して取り込むことができるため、気孔を開く回数が少なくて済む。これが、乾燥に強い秘密。

「スベリヒユ」はもっとすごい(?)。スベリヒユは、二酸化炭素を濃縮して取り込むことができる上に、気孔を開くのは夜だけ。乾燥に対する強さはエノコログサをさらに上回る。

では、スベリヒユのような乾燥に強い進化を遂げた植物は多いのかというと、実はそうでもない。そういう植物はごく一部のよう。

それはなぜ？夜の間しか気孔を開かないということは、夜の間しか、二酸化炭素を取り込めないということ。それを光合成に使えるのは日がさす昼間だけ。しかし、その光合成で作出した(植物にとっては廃棄物の)酸素も、昼間は気孔を閉じているので排出できない。そのため、確かに乾燥には強いが、循環効率が非常に悪いシステムということになる。

稲垣栄洋『面白すぎて時間を忘れる雑草のふしぎ』王様文庫には、以上のようなことが書いてありました。強みと弱みを合わせ持つのは、生きとし生けるものの宿命。弱みのダメージを極力なくして、強みを生かせるか、伸ばせるかということは、子育てにも大いに通じることなのではないでしょうか。

エノコログサ



スベリヒユ

